

＜金標準先物、信用リスクと雇用統計で金利低下の恩恵・・・＞



(出所：オアシス)

パウエル FRB 議長は議会証言で「データを包括的に踏まえ、より急ピッチの引き締めが正当化されるなら、利上げペースを引き上げる用意がある」と述べ、市場には3月のFOMCで0.5%の利上げの思惑が強まりを見せている。特にFFレート誘導目標に近い短期2年債は2008年以来の5%を上回る水準まで金利を押し上げている。しかし週末の雇用統計で非農業部門就業者数が事前予想の22.3万人増を上回る31.1万人増となったが、失業率は前月の3.4%を上回る3.6%となり、平均時給も前回の0.3%を下回る0.2%になるなど、14日のCPIまで0.5%の利上げ確証が後退している。

特に週末にSVBファイナンシャル・グループ傘下のシリコンバレー銀行が米国連邦預金保険公社(FDIC)の管理下に置かれた事で経営破綻したと発表されると、信用リスクが高まりを見せて逃避の債券買いに拍車が掛かり、金利低下とドル安で金標準も大きく反発するなど8070円まで戻りを見せており、信用リスクと金利低下で8100円を試すと思える。

＜テクニカル＞

金標準先物の日足のMACDやRCIでは、MACDはMACDとシグナルが上昇を続けており、RCIでは短期が下げ渋りながら、長期は上昇を続けており、オシレーターは強気を示唆するサインに思える。また日足は10日移動平均線が位置する8022円を上回るなど今年の高値8098円を試す可能性は強まったと思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 4,500,000 円(2023 年 3 月 13 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2023 年 3 月 13 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>